

未来を耕す。

和歌山には積極的に農業に関わろうとする若者たちがいる。それは新しい価値観を持った上で自分を選んだライフスタイル。ナチュラルなその横顔に触れました。



毎日が楽しくて仕方がない夫婦で始めたはじめての農家暮らし。

昨年、熊野古道沿いの田辺市中辺路町で、新しい農家が生まれた。夫婦が農業を始めたのは中辺路に移住してからのこと。「僕たちの栽培方法は除草剤や農薬だけでなく肥料も与えない自然栽培です」と語るのは堤勇夫さん。農家になったきっかけは、たまたま中辺路に立寄り、“Cafe朴”さんで中峯さんと話をして、そして野中の一方杉に触れた途端、「あ、私はここに住むだろう」と妻の雅子さんが直感したからだと言う。

「とはいえる家を借りるのも、畠をする土地を借りるのも信頼関係が大切

です」。4年前から中辺路に住み始め、近所付き合いを通じて人間関係をゆっくり築き、その縁から空いている耕地を幾つか借りることができ、ようやく専業農家に。今ではマルシェ・ドゥ・小月という名前で近所のAコープや、レストランなどに直接納品するなど少しづつ顧客もでき始めた。「始めたばかりなので、まだまだ学ぶことと反省することばかりです。虫も動物もそして植物も一生懸命生きている。そういうことを感じられる毎日が愛しいです」。農業を気負わずライフスタイルに取り込んでしまう二人が素敵だった。

「もうすぐ田植えを始めます」と嬉しそうに苗を持つ勇夫さん。



自然に囲まれた場所に佇む「田舎ごはんとカフェ 朴」。中辺路町近露はオーナーの中峯幸美さんの生まれ故郷。築100年以上の古民家を改築し6年前にオープンして以来、はっこりとした時間を求めて多くのファンが訪れる。ランチのメニューに使われている無農薬の農作物は、中峯さん自身が店前の畑や田で作ったもの。

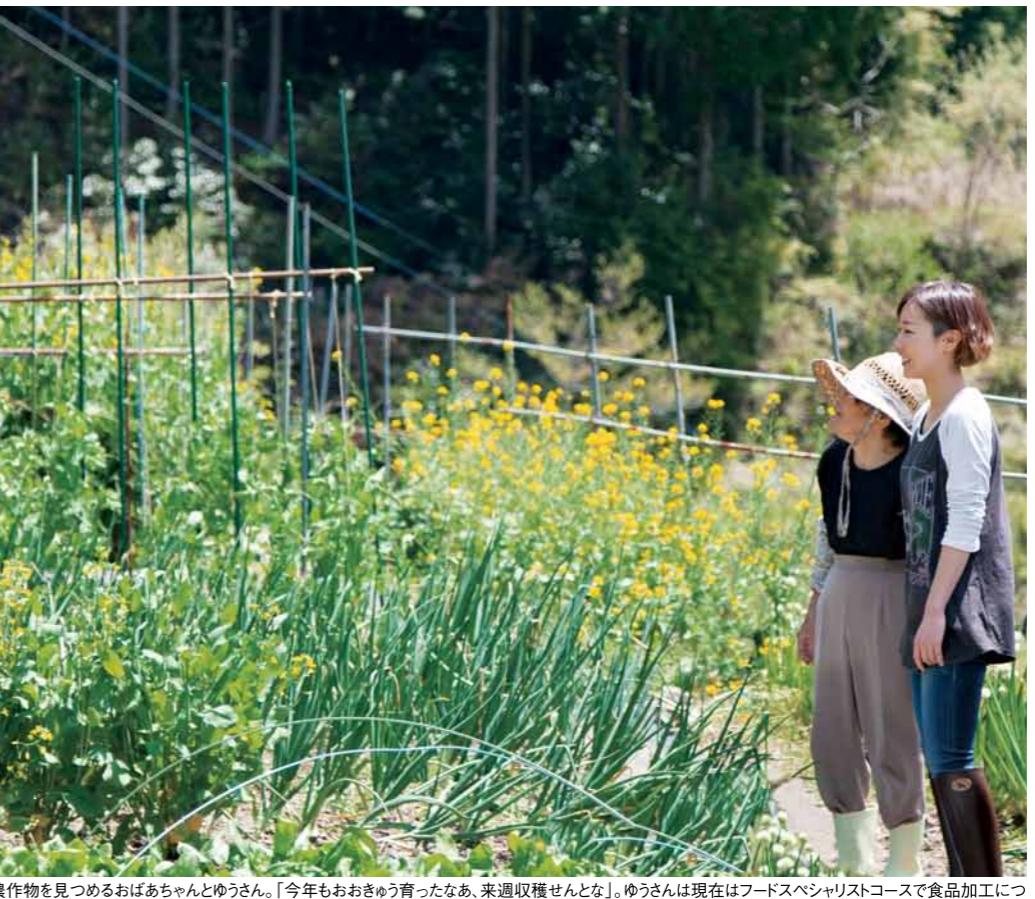


「産休で1年半ほどお店を閉めましたが、再オープンするとまたお客様が戻って来てくれた時は本当に嬉しかった」。そんな“cafe朴”的おすすめは、天然酵母の無添加パン。素朴だが喰めば喰むほど、小麦の旨味を感じる本物のパンだ。

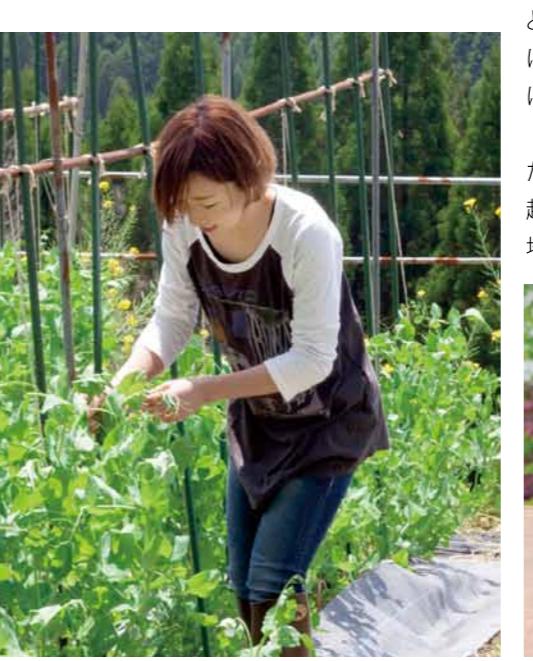
marche' du 小月
住所／田辺市中辺路町野中304-2 電話／090-4302-8405
<http://marcheduaduki.cart.fc2.com>

田舎ごはんとカフェ朴
住所／田辺市中辺路町近露203 電話／0739-65-0694

二人で話しながら楽しげにカモミール(カモマイル・ジャーマン)の花を収穫する。自分たちで乾燥させハーブティーにして販売。



畠の農作物を見つめるおばあちゃんとゆうさん。「今年もおおきゅう育ったなあ、来週収穫せんとな」。ゆうさんは現在はフードスペシャリストコースで食品加工について猛勉強中。



やっぱりおばあちゃんの野菜が一番美味しい!~

おばあちゃんからお母さんにそしてさらなる未来につながる“ココロ”

自宅前に広がる美しい龍神村の千枚田。「昨日東京から帰ってきたのですが、久しぶりに聞いたカエルの合唱。やっぱりいいですよね」と笑顔で話す原ゆうさんは現在東京農業大学栄養学科に在籍中の20歳。「物心ついた頃から祖母の畠仕事姿を見て育ち、自然と手伝っていました。今でも休みの度に帰って来ては、おばあちゃんと一緒に農作業を楽しんでいます」。

農大に進学したのも地元に根付いた仕事をしたいと思ったからだ。「母が起業した“龍神は～ど”は、女性たちが地元で働く場所を作る事が目的でし



“龍神は～ど”は、ゆうさんの母、原さださんが代表をつとめる特産品販売所。「龍神の豊かな自然から生まれる品々のやしさを届けたい」そんな願いから龍神在住の女性だけで設立し、“袖べし”はじめ、様々な新しい地元の特産品を開発・販売している。ゆうさんも小さい頃から、よくお店番をしていたとか。

■龍神は～ど
住所／田辺市龍神村龍神165
電話／0739-79-8068